

令和6年度草津市立教育研究所第2回運営委員会

日時 令和7年2月6日(木)

15:30~16:45

場所 教育研究所 研修室

次第

1 開会のあいさつ(教育研究所長 小林 悦子)

2 令和6年度事業の実績と課題について

(1) 研修事業について

(2) 調査研究に関する事業について

(3) 教育相談に関する事業(やまびこ教育相談室)について

(4) スキルアップアドバイザー配置事業について

(5) その他

3 令和7年度の事業計画について

4 閉会のあいさつ(教育研究所長 小林 悦子)

令和6年度 草津市立教育研究所運営委員会運営委員 (敬称略)

	団体等	氏名	所属
1	学識経験を有する者	糸乗 前	滋賀大学教育学部教授
2	校長会の代表	辻 大吾	老上中学校長
3	園長・所長の代表	角 明美	常盤こども園長
4	教頭会の代表	木村 弘子	玉川中学校教頭
5	小中学校教員の代表	鵜飼 裕美	草津小学校教諭
6	市社会教育委員の代表	橋本 篤典	草津市社会教育委員会議代表
7	市立小中学校の保護者	國松 秀雄	
8	市同和教育推進協議会の代表	片山 恵泉	市同和教育推進協議会副会長
9	公募による市民	黒川 清香	
10		宮内 弥生	

○研究所職員一覧

		氏名	担当業務
1	所長	小林 悦子	所内事務の総轄
2	副参事	恒松 睦美	SSW(スクールソーシャルワーカー)
3	副参事	寺内 更三	所内事務(児童生徒支援課と兼務)
4	指導主事	岡崎 仁志	所内事務・事業運営全般
5	研究員	玉木 裕	調査研究
6	指導員	中谷 仁彦	やまびこ教室 担当 教育相談・学校支援
7		西澤 留美子	
8		藤井 弘美	
9		沢本 まゆ子	
10		角 玲子	
11		小川 絹子	
12	スキルアップアドバイザー	清水 康行	小中学校教員のスキルアップ支援
13		山崎 賢	
14		仲野 忠克	ICT活用のスキルアップ支援
15		糠塚 一彦	

●令和6年度事業の実績と課題について

令和6年度 夏期研修講座(研究発表大会講演含む)について

1 開設講座

人数制限を設けず、希望者は全て対面で参加できるよう計画した。参加者が多い講座については、オンラインで他会場とつないで実施した。

【一般講座…16講座 くさつ教員塾…1講座】

また、NITS(独立行政法人教職員支援機構)のオンライン研修サイトを紹介し、いつでも研修を可能な体制を整えた。

2 受講状況

受講者数(一般講座・くさつ教員塾・研究発表大会講演)… 1033名

3 受講者評価

受講者が講座終了後、または動画視聴後に、満足度を4段階(「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」)で評価。

講座 平均満足度
98.6%

4 成果と課題

【成果】

- ・参加人数の多い講座は他会場を設け、オンラインでつないだり、後部席からでも研修資料が見えるよう、ダブルスクリーンにしたりするなど、環境や設備等を工夫を凝らすことで希望者は全て対面で参加していただくことができた。
- ・昨年度より研修の数を増やしたことで、参加人数が390名増加した。(令和5年度643名→令和6年度1033名)
- ・子ども家庭・若者課や教育会との共催で、研修することができた。
- ・「こどもまんなか社会」「ウェルビーイングな学校づくり」など次期教育振興基本計画を見据えた研修が実施できた。
- ・資料について、例年紙の資料を配布していたが、今年度は公立の職員にはタブレット端末やPCを持参していただくことで資源の節約をすることができた。(ペーパーレスの取組)
- ・NITSのオンライン研修を紹介し、205回動画の視聴をしていただくことができた。

【課題】

- ・講座による人数の偏りがあるので、どの講座においても、なるべくたくさんの教員が参加できるように、講座内容の精選および発信の仕方の工夫をする必要がある。

令和6年度 自己啓発講座について

1 事業概要 平日の夕方から行う、実技的な演習をメインとする研修講座

2 開設講座一覧(時間は主に、15:50~16:50、実質1時間)

	月日		演題	講師
1	6/11	火	【体育科】今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる7	滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子 さん
2	11/1	金	【教育相談】不登校の子どもたちとその保護者の思いを考える	NPO 法人 Since 代表 麻生 知宏 さん
3	11/12	火	【消費者教育】楽しく学ぶ!消費者教育	草津市消費生活センター 主任消費生活相談員 荒山 美佐枝さん
4	11/28	木	【自分づくり】状況に飲み込まれない冷静な自分づくり	イシキ Smoothy 代表 寺岡 佑記 さん

※4については、12/10・1/21・2/18・3/4 にオンライン研修を継続して行っている。

3 会場および参加人数…延べ参加者数 22人

	会場	参加人数		会場	参加人数
1	山田小学校 体育館	11	2	教育研究所 2F研修室	6
3	教育研究所 2F研修室	2	4	教育研究所 2F研修室	3

4 受講者評価…全講座平均満足度 100%

	会場	平均満足度		会場	平均満足度
1	山田小学校 体育館	100%	2	教育研究所 2F研修室	100%
3	教育研究所 2F研修室	100%	4	教育研究所 2F研修室	100%

5 成果と課題

【成果】

- ・体育科では、子ども園の先生も参加され、充実した研修となった。
- ・教育相談は、フリースクールの様子を知ることができてよかった。
- ・「自分づくり」講座はオンラインを使う初めての連続講座で3月まで月1回程度継続実施中。時間的な制約が多いと感じられたためか、参加者は少なかった。
- ・「消費者教育」「自分づくり」と新たな分野について、講座を開設することができた。

【課題】

- ・今年度は教員のニーズに合う内容を実施するとともに、社会の状況や教員の実態から、必要であると思う内容の研修を実施したが、参加が少なかった。開催時期、開催の告知方法等をどのようにしていくべきかが課題である。

令和6年度 草津市教育研究奨励事業について

- 1 目的(概要) 市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の推進を図る。
学校・園、学級等の経営や学習指導方法の改善と充実を図る。

2 応募部門

①	ステップアップ研究 (現職の経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究 (若手教員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究 (保育所・こども園の職員を対象とした研究)	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとしてまとめることによって教育力・保育力を向上させる実践研究

3 応募点数()内は、昨年度の応募数。

種別	就学前教育	フレッシュ研究	ステップアップ研究	合計
就学前	3(2)			3(2)
事務			2(0)	2(0)
小学校		16(13)	5(5)	21(18)
中学校		8(9)	3(1)	11(10)
合計	3(2)	24(22)	10(6)	37(30)

4 成果と課題

【成果】

- ・経験の浅い先生方の実践力や研究推進力の向上の場となった。
- ・昨年度より応募人数が増加した。昨年度にはなかった事務職員からの応募が2点あった。
- ・ESD、ICT、教育相談等現代社会における課題解決を探る研究内容が多かった。
- ・今年度も応募締め切り後すぐに論文作成講習会を開催することで、完成までの見通しをもって取り組んでもらうことができた。
- ・研修の一つとして位置付けた前年度の優秀論文の発表を夏の研究発表大会で実施することで、論文作成の参考にさせていただいた。

【課題】

- ・毎年応募してくださる先生も若干いるが少数である。継続した研究や実践を考えたときに、そのような応募者がもっと増えていくよう、働きかけていく。

令和6年度 研究員による調査研究について

- 1 研究主題 不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の在り方に関する研究
～登校支援室の運用と教職員の関わりを通して～

2 研究概要

「第3期 草津市教育振興基本計画」(R2～6)では、「不登校児童生徒の校内・校外での居場所づくりを行い、学びの確保と社会的自立に向けた支援を充実する。」と記されている。そこで、本研究では、今年度から新たに草津市内の全小中学校に配備された登校支援室と拡充された登校支援室加配教員についての在り方を探り、不登校児童生徒の社会的自立のためのより良い活用法を示すことをめざした。そこで実際に登校支援室へ行き、実態調査と分析に取り組み、その活用法について検証した。

3 研究の方法

- (1) 市内小中学校へアンケート(登校支援室の利用について)を取り、登校支援室の使用方法について市内の実態の把握をする。
- (2) 市内の実態を踏まえ、研究協力校の登校支援室に実際に行き、加配教員、教育相談教員、利用している児童生徒等からの実態調査・聞き取り調査を行う。
- (3) 児童・生徒を各校一名抽出し、10月の1か月間の利用頻度の変化を見る。
- (4) 登校支援室の成果と課題について考察し、登校支援室のモデルを考える。

4 研究の内容

研究協力校3校を訪問し、実際の登校支援室を観察した。

- ① 児童生徒の登校支援室での過ごし方・タイムスケジュールについて
- ② 児童生徒と加配教員との関わり、また他の教職員の関わりについて
- ③ 登校支援室の環境、備品等について
- ④ 児童生徒、加配教員からの聞き取り調査

登校支援室の活用についてのモデルを示す。

5 研究の成果と課題

研究の成果(登校支援室の役割) ※3校の実践より考察

(1) 学校への再登校

児童生徒が、学校へ登校するためには安心できる環境が必要であると考えられる。安心のできる環境は、“話を聞いてもらえる”“宿題や課題を一緒にしてもらえる”“遅刻、早退をしても受け入れてもらえる”などが考えられる。このような環境下であれば、登校するための敷居を下げることができ、再登校へ繋がっていくと考えられる。

(2) 継続した登校

学校と繋がっていると感じさせることで、継続した登校に繋がってくると考えられる。そのためには学校の様子がわかる掲示物を張っておくこと、学級担任、管理職、養護教諭等の関わりがあることが大切であると考えられる。

(3) 登校から社会的自立へ

安心した環境の中で、興味や関心のあることに取り組むことや小集団活動をすることで、自己肯定感を高め、社会的自立(教室復帰など)に向かうことができると考える。

今後の課題

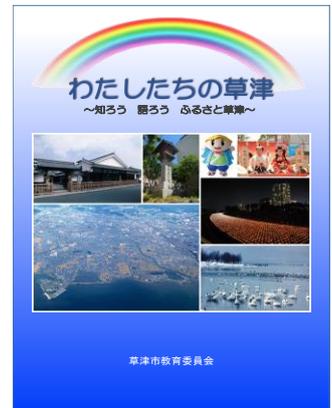
- (1) 児童生徒の状況は様々であり、登校支援室内での統一した支援が難しい。
- (2) 不登校になる要因は多様であり、一人ひとりのアセスメントを丁寧に行う必要がある。また個別に丁寧に関わっていくためには教員の人数が少なく、限界があるため、チームとして学校体制づくりに向けた対策が必要である。

地域教材（わたしたちの草津）の編集について

1. 今年度の取り組み（副読本の一部改訂）

令和5年4月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」（部分改訂版）の活用推進のため、令和8年度からの使用に向けた一部改訂（写真データや最新資料の収集・文面の修正等）を行った。

- ・第1回編集委員会・・・ 令和6年5月24日
- ・各委員による作成、見直し、編集作業・・・令和6年5月～令和6年11月
- ・第2回編集委員会（途中経過報告）・・・令和6年8月23日
- ・第1回推進委員会（原稿確認）・・・令和6年12月26日
- ・第3回編集委員会（全体会）・・・令和7年2月13日（予定）



・編集作業を行った原稿に関しては、令和7年度に印刷業者に依頼し、印刷・製本予定。また、完成した副読本に関しては令和8年3月に各小学校へ配布予定。

2. 今年度の取り組みの紹介

副読本「わたしたちの草津」

- ・副読本「わたしたちの草津」について、編集委員が内容を精査し、一部改訂を行った。
- ・グラフや表などデータの更新を行った。

<一部、紹介>

3 あんぜん
安全な暮らしを守る

わたしたちの暮らしを守るためにまちでは、どこで、どのような人たちが、はたらいっているのでしょうか。みんなで話し合ってみましょう。

① 火事から人びとを守る

気づく
草津市では、どれくらい火事が起きているのでしょうか。

草津市で起こった火災件数
わたしたちの身近なところでも火事は起きている。火事はどのようにして起きるのでしょうか。また、火事を見つけた時にはどうしたらよいのでしょうか。

種類	件数
蓄電池	11
たばこ	11
たき火	10
ゴミ箱	9
電気器具	8
たき火(薪)	4
電気配線	3
スパーク	2
その他	33

火災のけん数やひがいの人数の変化について、気づいたことを話し合おう。

自然災害のページでは、東日本大震災から石川県能登半島地震の変更。東日本大震災を知らない児童も多数いることから、内容の変更を行う。

2018年のデータから、2023年のデータへ刷新。湖南消防さんからデータをいただいて、更新を行う。

他県への支援
2024年(令和6年)1月1日午後4時10分ごろ、石川県で能登半島地震とよばれる大きな災害が起こりました。
草津市は給水車(水を運んだり配ったりできる車)を出発させました。また、避難した人びとを助けるために職員を送りました。がけ崩れや壊れた建物などで道路が通れなくなる中、災害地への到着に大変な時間がかかりました。

現地で活動した職員の方の話
草津市の職員は、石川県能登町で活動しました。
災害地では、地震で被害を受けた人も被害を受けていない人も、お互いに協力しながら避難所を運営していました。災害時は、協力し合うこと、助け合うことの大切さを感じました。

災害から命を守る取り組みをまとめる学習をふりかえり、調べた取り組みについて話し合います。また、草津市役所の防災に関するホームページを見たり、「草津市防災ハンドブック」を読んだりしながら、自分たちにもできることを考えましょう。

3. 次年度について

- ・次年度は、令和8年度から使用予定の社会科副読本「わたしたちの草津」の製本・印刷を行う予定。
- ・副読本「わたしたちの草津」の部分改訂に伴い、指導書の部分改定を行う予定。

令和6年度 やまびこ教育相談室

○ 今年度の取り組み(成果)

①学校への復帰

やまびこ教室に在籍する中で、学校や保護者と話し合い、本人が無理のない範囲で学校との関わりを探っていく中で

⇒学校に登校できなかった状態から、定期的に登校(別室、放課後等含む)できるようになった。

⇒家庭訪問で担任と会う、またはやまびこ内で担任や関係教員と会うことができるようになった。

②特別活動を通して

毎月イベントを設定し、活動する中で

⇒行事に参加できたり作品を完成させたりすることで、達成感を得ることができた。

⇒苦手なことや初めてののことにも挑戦してみようとする気持ちが持てるようになった。

③様々な人やものとの関わり

家族以外のひとやものとのふれあいを持つことによって

⇒多くのこどもが異年齢の小集団の中に入り、他者と一緒に活動(ゲーム等)できるようになった。

⇒自分以外の人の行動や興味のあることに関心を寄せるようになった。

⇒パソコン学習システムの取り組める教科が増えたことにより、進んで学習に取り組んだり、学習に対して関心を持ったりする子が増えた。

④こどもの変化

同年代のこども同士の交流や小集団での活動を行う中で

⇒表情が和らぎ、居場所の一つとして通室できるようになった。

⇒お互いのしていることや会話に耳を傾けたり注目したり、他を意識して生活するようになった。

⇒好きなこと興味のあることをして認めてもらうことで、自分に自信を持てるようになった。

⑤情報の共有

保護者、学校、他機関と面談や情報交換することで

⇒個々のこどもの様子や不登校の要因について共通理解が図れ、目指す方向性を共有することで、その子に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

○ 今後の課題

・面談や情報交換、支援の検討会をさらに充実させ、こどもの不登校の要因や現状を見つめながら、安定して過ごせる環境づくりと学校復帰の手がかりを探る。また、今後の方向性を確認できるシステムと、改善が難しいケースの見立てや手立てについて具体的な方法を考える必要がある。

・小集団で過ごすことへの抵抗感を抱くこどもも多く、個別の対応への人的配置の難しさと工夫が必要である。また生活リズムを整え、安定した通室、または定期的に通室でき、同年代のこどもと顔を合わせることができるよう環境整備および本人、保護者との関わりを目指す。

・本人および保護者が中学卒業後も安心して生活できるように、他の相談機関へつなぐ等、手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。

令和6年度 教育相談に関する事業

1 目的

- ・不登校および不登校傾向にある児童生徒とその保護者に対して教育相談を行い、学校復帰、社会への自立に向けて、その支援を行う。
- ・学校と連携し、不登校支援に向けてケース会議等を通して支援する。

2 今年度の活動状況

(1)「やまびこ教育相談室」のパンフレットを各学校、関係機関に配布。市内の小中学校を通して全保護者宛てに案内チラシを年間2回(6月、11月)配布。教育研究所だよりで教員向けに活動内容と利用方法の説明掲載。各学校とケース会議を実施。

(2) 教育相談の活動状況 令和7年1月17日 現在

①相談者延べ人数(前年度同時期との比較)

年度	R6	R5
面談	371	444
電話相談	151	151
相談件数合計	522	595

相談内容(主訴)はほとんどが不登校、行き渋りで、いじめ、友人関係、集団不適合、学習困難、子育て、学校生活については少数である。

②相談者の内訳(前年度同時期との比較)

相談者	保護者		小学生		中学生	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5
面談	179	219	59	117	133	108
電話相談	149	141	0	4	2	6

③相談対象者の内訳(前年度同時期との比較)

相談対象者	小学生		中学生	
	R6	R5	R6	R5
面談	126	217	245	227
電話相談	62	79	89	72

今年度は小学生が対象の相談が減少、中学生は増加。相談のきっかけは「学校から」と「チラシを見て」が多い。

3 学校支援

児童生徒により良い支援を行うため、学校と連携し、ケース会議、電話や面談による情報交換を行っている。教職員からの保護者への当室の紹介や、教職員から当室に事前相談も増えてきている。

4 今後の課題

市内の教職員にやまびこ教育相談室のシステムや活動への理解促進に努める。

不登校児童生徒への支援について、学校との綿密な連携の中で、家庭環境・個人の性格傾向・特性等を総合的に把握、検討し、早期に適切な対応を図る。

スキルアップアドバイザー配置事業について

◆訪問回数及び支援人数(令和6年度 1月末現在)

授業支援 (訪問回数) (支援人数)

小学校 149回 204名

中学校 44回 45名

(共通)夏季支援講座 1回 42名

ICT支援 (訪問回数) (支援人数)

小学校 117回 211名

中学校 42回 55名

ICT職員研修 12回 372名

◆訪問・支援内容

- ・年度初めの校長面談(4月~5月)
 - ・授業参観と指導助言(4月~7月)
 - ・OJTリーダーの授業参観と懇談(6月~7月)
 - ・夏季支援講座(7月)
 - ・指導案検討(8月~9月)
 - ・研究授業と授業検討会(9月~12月)
 - ・指導内容についての校長面談(12月)
 - ・授業参観と指導助言(1月~2月)
 - (予定)年度末校長面談(2月~3月)
- ・年度初めの校長・情報担当者面談(4月)
 - ・授業支援(4月~2月)
 - ・学校支援(30回、学校ICT研修20校)
 - ・夏季支援講座(7月)

第一回参観授業(5月)

- ▷ 新規採用後2年目の先生
 - ・細かい問いが多く、結局何を考えさせたいのかが分かりにくく、大事なところで時間をかけることができなかった。対話の時間は、何のための交流なのか、交流するときに意識することを考えたい。(小)
- ▷ 他市から転入の先生(経験あり)
 - ・教師主導で、分かっている子で進んでしまうところがあるので、何度も子どもたちに返し、ペアやグループで話す機会を作るようにしていきたい。ペア活動では、自分の考えを見せ合う、伝え合うだけになってしまっているので、深めることができるような話し方の流れを提示していきたい。(小)
- ▷ 臨時講師(今年初めて)
 - ・教科書の内容主体の授業ばかりではなく、子どもたちの出てきた疑問や、考えをもとに学習を進めていけるようになりたい。また、まとめとのつながりを意識して課題を子どもたちと作っていきたい。(小)

夏季支援講座(7月)

- ・ICT(ロイロノート)をあまり活用することができていなかったのので、どのような場面で、どのようなツールを使ってなど、具体的な活用方法が知れてよかった。(小)
- ・同じ学年を持つ先生方と意見を交わしながら単元構想を練ることができ、有意義な時間となりました。ICT活用の場面はもっと柔軟に考えていっていいのだと感じました。(小)
- ・単元構想シートを作成した際、ICTを使うことはもちろんであるが、教師が提示した意図的な学習の仕方になってしまっていた。授業の中でどのように3つの観点を取り入れるのかということが学びになった。(小)
- ・自分自身が2学期に取り組む学習単元なので、構想を具体的にイメージしやすかったです。ロイロノートの活用方法をいろいろ知ることができてよかったです。子どもたちに何を身につけさせたいかを考えながら構想することの大切さを実感しました。(中)
- ・6年社会科で演習を行いました。社会科を教えるにあたり、知識伝達がメインになってしまいがちだったのですが、グループで意見を出し合い、子どもが、学んだことを生かして思考し、考えを表現するためにICTを活用できないかと考えました。また、発問の工夫で子どもが主体的に考えたいような課題設定も大切だと学びました。2学期以降の学習に生かしたいと思います。(小)

研究授業(10月~12月)

- ▷ 採用後2年目の先生
 - ・説明が長く、実験と片付けの時間が足りなかった。学習内容の基本をおさえた上で、生徒の興味を引き出す課題設定が行えるように考えていきたい。また、授業のポイントを見せて伝えていけるように取り組んでいきたい。(中)
 - ・テキストマイニングで授業前と授業後で自由についてイメージがどのように変わったかを可視化することで、考えの変容をふり返ることができた。また、教材を読む前にどんな登場人物が出てくるかをおさえておくことで、難しい教材にも入りやすいようにしたことは効果的だった。(小)
- ▷ 他市・他校種から異動の先生
 - ・自然とペアやグループで相談し合い、調べている姿が見られたが、個人作業になりがちなので、教師が積極的に話し合うことを推奨しても良かった。今回は観察の課題なので写真で記録したが、実験の課題の場合は動画で経過を記録し、振り返れるようにしておく学習効果が高いだろう。(中)
 - ・子どもたちの学習意欲を引き出すため、単元の出口にスライム作りを設定し、学習する目的や楽しみを与えるようにした。子どもたちは活動をととても楽しみにし、その目的意識から意欲的に学習に取り組むことができた。(小)

教科書センター

教科書展示会（令和6年度）

期間：6月5日（水）～6月28日（金）（日・月曜日を除く）
場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）



のべ38人の方が来場しました！

「研究所だより」&「所報」の発行について

- ★「研究所だより」：年間数回を基本に、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付
草津市立教育研究所 HP に PDF で掲載（下記参照）
- ★「所報」：1年間の取り組みをCD-ROMにまとめ、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付予定



研究所ホームページ

★令和6年度（4月）より、市公式ホームページ内に移設しております。

研究所ホームページ(市HP内)

<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kosodate/kyoiku/index.html>



令和7年度の事業計画について

●職員の研修に関わって

- ・教職員および保育士の資質向上に資する事業を展開する。
- ・草津市の教育および保育向上を図る事業を展開する。
 - ①草津市教職員夏期研修講座 … 10講座程度を予定
 - ②自己啓発講座 … 5講座程度を予定
 - ③教育研究奨励事業 … 市内20小中学校から各校1本以上の応募を目指す

●調査・研究に関わって

- ・学習指導要領(H29告示)に対応した教育課程に関する調査、情報収集を行う。
- ・研究員による調査研究を継続する。
- ・令和8年度から3年間使用する副読本「わたしたちの草津」の指導書の見直しを行う。

●スキルアップ事業に関わって

- ・小中学校教員の授業づくり、学級づくりへの指導支援を行う。
- ・ICT機器等を活用した授業づくりをサポートする。
 - ② 対象教員に対する個別指導を行う。
 - ②夏季支援講座でのICT機器を活用した授業づくりの演習を行う。
 - ③プログラミング学習の支援を行う。

●教育相談に関わって

- ・不登校および不登校傾向にある幼児児童生徒とその保護者への支援を行う。
 - ① 電話および来室による教育相談を実施する。
※業務委託として土曜日の電話相談を試行で実施する。
※週1回、自傷行為や療育にかかわるケース、家族関係が複雑なケース等に対応できる心理士面談を実施する。
 - ② 学校および関係機関と、課題解決に向けての連携を密にする。
 - ③ 不登校のこどもを持つ保護者会を実施する。…年間3回程度を予定
- ・教育支援センター「やまびこ教室」における小集団活動等を通して、児童生徒の学校復帰あるいは社会的自立を目指す。
 - ①他機関との連携
 - ②学習支援ソフトの活用